
第 2 7 3 号

2015年3月9日

日 本 気 象 学 会

関 西 支 部 ニ ュ ー ス

- 2014年度の例会報告
- 第8回気象サイエンスカフェ in 関西
報告
- メールアドレス登録のお願い
- 住所変更届のお願い
- (公社)日本気象学会入会案内

〒 540-0008

大阪市中央区大手前4丁目 1-76

大阪合同庁舎第4号館

大阪管区气象台内

日本気象学会関西支部

振替 00980-5-18318

TEL (06) 6949-6143

FAX (06) 6944-2121

ホームページ：

<http://kansai.metsoc.jp/>

E-mail：

k a n s a i - i n f o @ m e t s o
c . j p

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記していま

○ 2014年度の例会報告

〈第1回〉近畿地区

今年度の第1回例会は、2014年12月17日(水)9時30分から17時55分まで、大阪管区气象台大会議室で、昨年度に引き続き、海洋気象学会例会、大阪管区气象台近畿地区気象研究会との合同で開催しました。参加者は約40名で、前年とほぼ同じでした。なお、海洋気象学会の加納理事から、2014年度末をもって海洋気象学会は従前の活動を終わると報告がありました。海洋気象学会との合同例会は、今回が最後ということになります。



近畿地区例会の発表風景

午前は大阪管区気象台近畿地区気象研究会を行い、線状降水帯による大雨、淡路島のおろし風を題材として、気象業務に深く関連する4題の発表がありました。午後は日本気象学会関西支部と海洋気象学会の合同例会で、セッション1では大澤輝夫氏（神戸大学）を座長に、セッション2では向川均氏（京都大学）を座長に、それぞれ3題、8題の講演を行いました。セッション1の講演は、いずれも船舶による観測データを取り扱ったものですが、その目的は、海上風の補正、北陸沿岸での海潮流の解析、航行船舶による温室効果ガスの排出量・特性の把握と様々でした。セッション2は気象分野8題の講演でしたが、大雨を対象とした研究のほか、生物観察と気温の関係、熱帯季節内振動に対する中高緯度大気の応答、竜巻様渦の遷移、台風の発達・衰弱の要因、成層圏突然昇温の励起源など、その内容は多岐にわたりました。気象といえば天気予報や災害が最も注目される場所ですが、今回のように様々な研究に触れることで、幅広い知識を得たり興味を持つことも重要だと思います。また、今例会では「PM2.5が天気を変える～ダイヤモンドダストが明かす降水の新要因」という題目で、奈良県立奈良高等学校の生徒6名による発表がありました。近年若者の理科離れがしばしば話題になる場所ですが、このような発表の機会を通じて少しでも理科に対する興味や学習意欲が高まり、ひいては気象学を目指してもらえることを期待しています。



奈良高校の高校生による発表



例会発表の認定証の授与

最後に、会場の手配や準備及び例会の運営にご協力いただいた、大阪管区気象台職員、海洋気象学会、日本気象学会関西支部の関係者の皆様方に対し、心よりお礼申し上げます。

(常任理事 杉本 悟史)

〈第2回〉 四国地区

第2回例会が2014年12月19日（金）と翌20日（土）の2日間にわたり、高知大学朝倉キャンパス共通教育3号棟にて開催されました。昨年同様、大阪管区気象台四国地区気象研究会との共催として19日13時半から20日12時まで、とても充実したプログラムとなりました。気象台関係者、大学関係者など、42名の参加がありました。

高松地方気象台長の城尾泰彦四国地区理事による開会挨拶、大阪管区気象台気象防災部の真木敏郎次長による臨席官挨拶により始まりました。例会は5つのセッションで構

成され、大阪管区気象台気象研究会と、気象学会からそれぞれ7件、計14件の研究発表と、特別講演が行われました。

第1セッション（座長は北村光良氏（高松地方気象台））は気象研究会で高松地方気象台と徳島地方気象台から大雪注意報の基準見直しや大雨予測手法の改善、最高気温評価改善について3件の報告がありました。第2セッション（座長は寺尾徹氏（香川大学））は四国例会の一般講演として、今年の台風に関連する竜巻や大雨に関する研究発表と特殊な地形を持つ屋島周辺の降水量分布についての報告がありました。



四国地区例会の発表風景

第3セッションの特別講演「予報現場から見た2014年夏の広島豪雨と高知の大雨」（座長は佐々）では、全国的な話題となった今年8月の台風に伴う大雨と、多大な犠牲者を出した広島豪雨について、清水栄一氏（広島地方気象台気象防災情報調整官）と楠田和博（高知地方気象台観測予報管理官）から予報現場の緊迫した生々しい行動記録の紹介がありました。学生などには多めに刺激になったことと思います。

例会1日目終了後の懇親会では、高知大学内の生協食堂において、気象台、大学関係者と例会の研究発表等を話題に楽しいひとときを過ごすことができました。

第4セッション（座長は北村光良氏（高松地方気象台））は高松地方気象台、高知地方気象台、松山地方気象台から大雨の高解像度モデル解析、強雨時の発雷の有無、大雨警報改善法と大雨発生条件の検討についての報告がありました。その後、城尾泰彦高松地方気象台台長より気象研究会に関する講評がありました。最後の第5セッション（座長は村田文絵氏（高知大学））は四国例会一般講演として、冬型気圧配置の特徴、強雨をもたらす低気圧位置と、やまじ風に関する報告がありました。

昨年に引き続き大阪管区気象台四国地区気象研究会との共催により予報現場と研究の立場が積極的に意見交換をできる場となったことは、地方例会の望ましい形と思われます。特別講演をお引き受け頂いた清水栄一氏と楠田和博氏、座長をお引き受け頂いた先生方、その他例会の運営に御支援、ご協力を頂いた皆様に心よりお礼申し上げます。

（佐々浩司四国地区理事）

〈第3回〉中国地区

第3回例会は、2015年1月16日（金）に広島地方気象台において、平成26年度大阪管区気象台中国地区気象研究会との合同開催という形で催されました。本合同研究会へ

の出席者は28名で、7件の研究会発表、4件の一般講演に加えて最後に特別講演が行われました。研究会発表は谷永守氏（広島地方気象台）、例会一般講演は岩田徹会員（岡山大学）を座長に進められました。

研究会発表においては、集中豪雨・大雨が発生する必要条件の見直しと十分条件の抽出について、岡山県、広島県、島根県、鳥取県の各県を対象とした事例解析を通じた研究結果の報告が各地方気象台の担当者の方々よりなされました。いずれも日々の気象予報業務や一般市民への的確な情報提供をするための重要な指標や閾値の決定につながる研究内容でした。これらに加え、中国地方の日本海側で発生するライン状エコーの発生機構、同地方で生じる熱雷による大雨の予測、岡山県に大雪をもたらした降水系の事例についての解析結果が紹介されました。一般講演においては、京都府および岡山県におけるオキシダントとPM2.5の季節変動特性、東シナ海沿岸における潮位副振動発生を対象とした海上観測実験、線状降水系観測時のXバンドMPレーダーの特徴について2014年8月広島豪雨を対象とした結果について発表されました。

特別講演は「風を測る」という演題で塚本修・岡山大学大学院自然科学研究科教授よりお話いただきました。本年3月を以て岡山大学を定年退職されるということから、長年にわたる気象測器と野外実験の歴史を風の測定という立場からレビューされました。大学院生時代から取り組まれた超音波風速計の開発と改良、多良間島における多数の風速



中国地区例会の特別講演の風景

計展開による風構造の解析、海面の熱・水・CO₂の乱流フラックス測定を世界で初めて船舶観測に適用された苦勞、日本を代表する悪風として知られる広島風の発生機構を解明された経緯についてお話しくださり、野外観測を中心として多くの成果を積み重ねてこられた貴重なご経験から興味深い知見を披露くださいました。

地方気象台の地区気象研究会と学会の地区例会の合同開催という形をとった本会でしたが、現場業務に直結する研究結果や事例解析、予報につながる条件の検証や新たな条件抽出、などの内容については、大学や研究所でなされる基礎研究の発表が多い学会等では味わえない貴重な機会を得ることができたと思います。

最後に、特別講演を引き受けてくださった岡山大学の塚本修教授と、発表会場の手配と運営を担ってくださった広島地方気象台の三角幸夫台長および広島地方気象台職員の皆様、例会の運営に御支援と御協力をいただいた多くの方に対して、心より御礼を申し上げます。

（中国地区理事：岩田 徹）

○ 第8回気象サイエンスカフェin関西報告

サイエンスカフェは、研究者などの科学の専門家と一般の市民が飲み物を片手に気軽に科学などの話題について語りあうコミュニケーションの場として、年1回開催しています。

2015年2月28日、大阪心斎橋の英國屋にて第8回気象サイエンスカフェ in 関西を開催しました（日本気象学会関西支部と日本気象予報士会関西支部の共催）。当日の参加は22名で、気象庁地球環境・海洋部日本海海洋気象センターから櫻井所長を招き、気象庁及び長崎、函館、舞鶴の各海洋気象台において16年間に渡る海洋観測、海上気象観測及びデータ解析に従事した経験から、「海の上の気象台」と題して話題を提供（講話）して頂きました。

船室は2人以上の相部屋であったものが、今では環境整備が行き届いて個室になっていること、過酷な生活の中1日4回の食事が船員の楽しみになっていること等の船内生活の裏話から、海洋データの最新の分析結果や、地球温暖化の監視として重要な二酸化炭素（CO₂）観測の最新の知見、アルゴ（Argo）計画と呼ばれる全球的に海洋の状況をリアルタイムに観測する国際プロジェクトの動向等、御自身の経験を基に幅広い話題を丁寧に解説してくれました。



講演する櫻井さんと参加者の皆さん

参加者からは、休憩時間の船上での楽しみ方は？ 現在も台風の定点観測は行なっているのか？ 超音波を発してプランクトンから流速・流向を捉えていると聞いたが、南に下がるに従ってプランクトンは少なくなるが問題ないか？等、活発な質疑・意見交換が行われる盛況なサイエンスカフェとなりました。

最後の締めくくりで、「日本海は、太平洋や大西洋と比較して面積こそ小さいものの、対馬暖流と北方からの冷水の境に前線域が形成され、深層の海水が循環、海水が生成される等の大洋としての性格を備えた“ミニ大洋”である。このため、大洋よりも早く地球温暖化の影響が日本海に現れる可能性が指摘されており、海水温の上昇等日本海で現在起きている現象を把握することによって、今後世界の大洋で起こる地球温暖化の影響の予測に役立つ」とお話されていた点が印象的でした。

（常任理事 見定 吉信）

○ (社)日本気象学会入会案内

ホームページ: <https://metsoc.jp.sakura.ne.jp/about/join/>

入会申込書(個人用)

公益社団法人 日本気象学会 FAX: 03-3216-4401

(二重線の枠内だけを記入しFax, 又は郵送願います。)

フリガナ		生年月日	(西暦) 年 月 日
姓 名		職業	
性 別	1. 男 2. 女		
刊行物などの送付先			
〒 -		(電話)	
現住所 (刊行物などの送付先と同じ場合は記入不要)			
〒 -		(電話)	
勤務先名/所属部署, 又は大学・学校名/在籍学部など (できるだけ詳細に) 及び所在地・電話番号			
〒 -		(電話)	
電子メール・アドレス			
会員区分 (希望する区分を○で囲んでください。学生/高年割引適用を希望する方はその文字を○で囲んでください。)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ A会員 (年会費 6,900円, 「天気 (毎月刊)」を無償配布) ・ B会員 (年会費12,600円, 「天気」と「気象集誌(JMSJ: 偶数月刊)」を無償配布) ・ C会員 (年会費 6,600円, 「気象集誌(JMSJ)」を無償配布) ・ (学生・高年割引適用) A会員 (年会費 4,200円, 「天気」を無償配布) ・ (学生・高年割引適用) B会員 (年会費 8,100円, 「天気」と「気象集誌(JMSJ)」を無償配布) ・ (学生・高年割引適用) C会員 (年会費 4,000円, 「気象集誌(JMSJ)」を無償配布) 			
注 ① 学生割引を希望される方は、在学証明書 (コピー可) などを提示願います。			
② 高年割引を希望される方は、4月1日に65歳以上であることが確認できる免許証 (コピー可) などを提示願います。			
③ 年の途中から入会される場合、会費は月割となります。 (参考: 月割の会費)			
刊行物の配布開始希望 年 月	(A会員: 580円/月, 学生・高年割引適用の場合 350円/月)		
天気 年 月号から	(B会員: 580円/月+950円/2月, 学生・高年 350円/月+650円/2月)		
気象集誌(JMSJ) 年 月号から	(C会員: 1,100円/2月, 学生・高年割引適用の場合 670円/2月)		
その他刊行物の定期購読の希望有無			
気象研究ノート	1. 希望する (号から) 2. 希望しない		
大会講演予稿集	1. 希望する (年 春/秋 から) 2. 希望しない		
来年からの会費納入方法 (希望の番号を○で囲んでください。)			
1. ゆうちょ銀行口座からの引落	注 ① 1. 2. 3. の場合は、手続きに必要な申込書類をお送りします。 ご記入がない場合は 4. とみなし、請求時に払込取扱票をお送りします。 ② 1. 2. 3. の場合の引落手数料は学会が負担します。 ③ 4. の場合、振込手数料は申込者負担とさせていただきます。		
2. 銀行口座からの引落			
3. クレジットカード決済			
4. 郵便局からの振込 (払込)			
通信欄 (その他)			

以下、学会事務担当者記入欄:

月割会費	天気: 冊 × 円 = 円	気象集誌: 冊 × 円 = 円	合計: 円
会員番号	所属支部	受付日	20 年 月 日
		承認日	20 年 月 日

2013.04.25